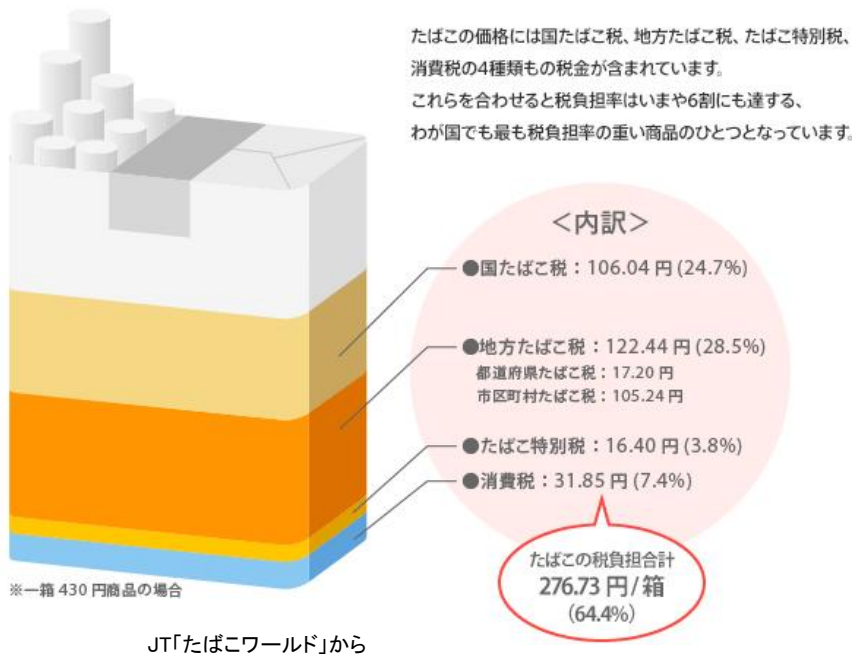


週刊 タバコの正体

日本では、ほとんどのタバコが1箱(20本入り)430円で販売されています。この値段を聞いて「安い」と感じる人は少ないはずですが、一旦ニコチン依存症にかかると、「高い」と思いながらもタバコを買い続けなければなりません。毎日のように430円を払い続けるのは、タバコを吸わない人や興味のない人にとって「もったいない」と感じるでしょう。

ところで、このタバコの価格の大半は税金だと言うことを知っていますか。下図に示すように税金の割合が6割を超えています。つまり430円のうち270円以上も税金を支払っている事になるのです。タバコは「生活必需品」ではなく、好きな人だけが必要な「嗜好品」という扱いで課税されているのですが、それにしてもその税率が高いのはなぜなのでしょう。

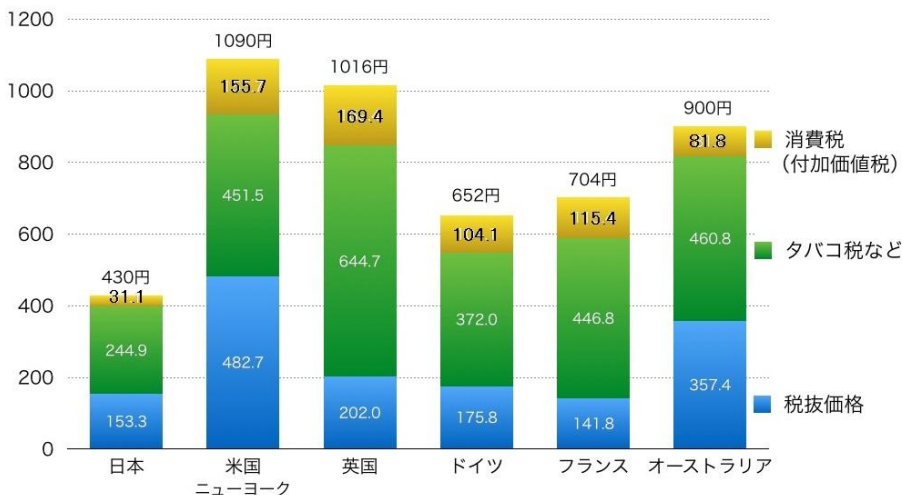
たばこは税負担率が6割を超える商品のひとつです。



税金を徴収する側からすれば、税金を多くするため「高くても売れる」タバコの税率が高くなっているという見方もできますが、タバコは人々の健康を害する商品なので、売れない方が国民のためには良いと考え、税金を高くして買いにくくしていると見ることができます。

そんな事情があつて、日本より諸外国のタバコの値段とその税金はもっと高くなっています。左下のグラフを見ると、米国(ニューヨーク)や英国では1箱1000円を超え、オーストラリアでも900円もします。

日本と諸外国のタバコ1箱あたりの価格と税額



禁煙推進学術ネットワーク「禁煙の日」オフィシャルブックレット第4版(2014)

私たちに、430円の日本のタバコは「高い」と感じられています。世界的には安く、まだまだ買いやすい価格なのです。

日本のタバコも、近い将来「高くて買えない」ぐらいの価格になる時代が来るかもしれません。

産業デザイン科 奥田 恭久